

意欲ある担い手への支援

要約

(対象：新規就農者)

各集落・地域が抱える人と農地の問題解決のため作成する各地区単位の地域農業の将来計画「人・農地プラン」作成を支援するとともに、プランを作成した地区の意欲ある農業の担い手（新規就農者）を特定し、支援を行った。

現状(背景)と課題

- ・人・農地プラン作成済み地区（H25：36地区）
- ・農外からの新規就農者が増加



目標

- ・地区の担い手への着実な支援
- ・担い手（新規就農者）の定着に向けた支援

活動内容

- ・地区の担い手への巡回指導数 107名
- ・新規就農相談対応件数 延べ51回
- ・新規就農者の資金借入相談対応件数 延べ48回
- ・担い手（候補者）向け研修会の開催 2回

成果

- ・H26年度末の人・農地プラン作成済み地区数は38地区となった。
- ・H26年度に人・農地プラン作成地区で新規就農した者は2名で、プラン作成地区での新規就農者は18名となった。
- ・H26年度に新たに制度資金を活用した新規就農者は2名で、人農地プラン作成地区での資金活用者は11名となった。



新規就農者への巡回指導



担い手（候補者）向け研修会

北部農林振興事務所農林普及課
担当：担い手係 小走善宣、新子悟志、山原俊昭、
小崎あかね
(意欲ある担い手育成支援事業)
(農業経営基盤強化促進対策事業)
(新規参入者支援事業)

普及活動のポイント

- ・新規就農の相談にあたっては、地域での定着がスムーズに進むよう丁寧な対応を心がけた。
- ・新規就農者の資金借入相談にあたっては、時間をかけて対応し、無理なく現実的な規模で開始する計画となるよう誘導した。

対象の変化

- ・新規就農にあたっては、地域の農業者との協調が大事であるとの意識付けができた。
- ・資金活用については、経営開始時は小規模から始め段階的に発展させていくよう意識が変化していた。

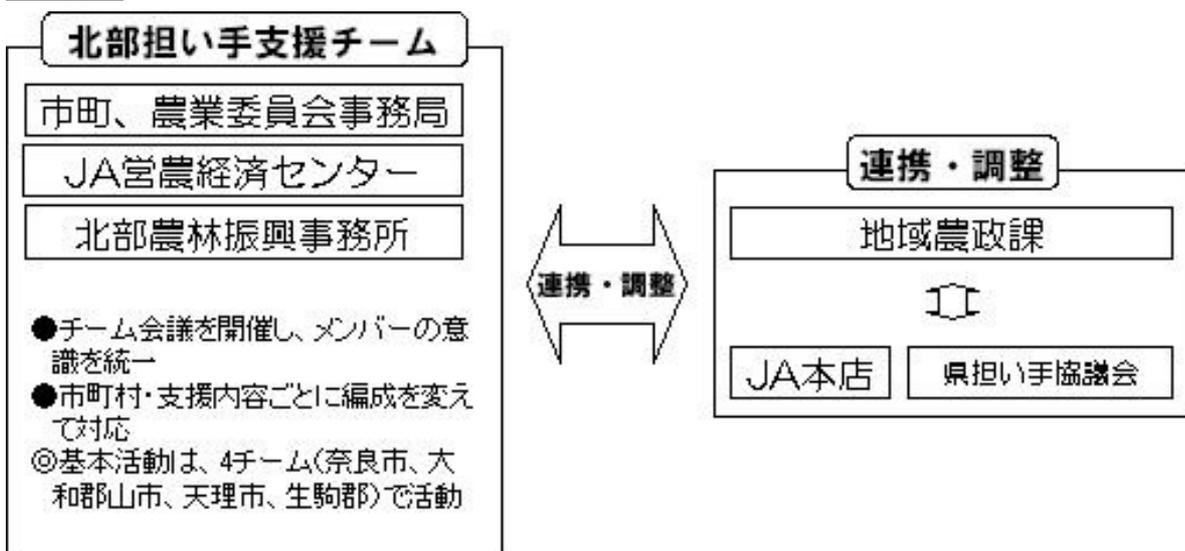
対象者からのコメント

- ・地域の農業を担う一員として頑張っていきたい。
- ・経営開始時は無理のない規模から始めるよう助言された。実際やってみると小規模でも段取りよく出来ないこともあり、助言が実感された。

これからの活動ビジョン

- ・新規就農者の定着に向けた支援の継続

活動体制



用語解説

○人・農地プラン

集落・地域が抱える「人と農地の問題解決」のため、集落・地域の話し合いによって、

◎今後の中心となる経営体（個人、法人、集落営農）はどこか

◎中心となる経営体へどうやって農地を集めるか

◎中心となる経営体とそれ以外の農業者（兼業農家、自給的農家）を含めた地域農業のあり方（生產品目、経営の複合化、6次産業化）

などを決める集落の「未来の設計図」のこと。